

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100213		
法人名	株式会社ベストケア		
事業所名	青森第1グループホーム1F		
所在地	青森県青森市青柳1丁目16番5-1号		
自己評価作成日	平成25年1月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成25年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当グループホームの入居者様が、病状の重度化や加齢により衰弱し、人生の終末期の状態になっても、ご本人が望む場所で、ご本人が望む生活を維持し、最後まで暮らしていくことができるように、医療機関及びご家族と協力して対応している。</p> <p>また、目の前に海が広がり、とても眺めがよい場所となっている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームはモダン且つおしゃれな建物で、敷地内からは海が見渡せる環境にあり、四季折々の風景が楽しめる場所に立地されている。</p> <p>管理者及び職員は、会社の運営理念の下に作成した「家庭的な環境のもとで、入居者様がその役割をもって、日常生活が営むことができるよう心をこめたサービスを提供していきます。」という理念を共有しており、日々のケアサービスを実践している。特に2ヶ月に1回発行される新聞は、町内会等にも回覧され、地域とホームとの架け橋となっている。また、医療面でのバックアップ体制の充実は勿論、職員同士、職員と利用者とのコミュニケーションも良くとれており、利用者は思い思いに過ごされている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が理念を共有し、毎日の生活の中に反映させていけるように声掛けしながら、協力して取り組んでいる。	会社の運営理念の下、職員が分かりやすく、実践しやすいようホーム独自の理念を作成している。また、職員一人ひとりが、日々のサービス場面で理念を反映させるよう努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板やホームの新聞、ブログ等を通して、日常的に交流を図っている。	2ヶ月に1回発行するホームの新聞を町内会の回覧板と一緒に回覧している他、町内の夏祭りやゴミ拾い等の行事への参加を通じて、地域住民との交流を図っている。また、ブログでの問い合わせの他、近所の住民が気軽に相談等で立ち寄っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各行事等を通して、地域の方々との交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して、地域交流についての報告の他、勉強会を行い、サービス向上に活かせるよう実践していきたい。	運営推進会議に積極的に参加していただけるように、年間の開催予定を事前に配布する等の工夫を行っている。会議は2ヶ月に1回開催しており、ホームの報告や情報交換を行い、できるだけ意見等を出していただけるよう努力している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自己評価、外部評価の結果について報告していく他、運営推進会議の報告等もしていき、必要に応じて、職員が市役所に出向き、相談連携を図っていききたい。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加しており、市へはホームのパンフレットや広報誌等を配布している。また、今回が初めての外部評価であり、今後の会議において自己及び外部評価結果等を報告する予定となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し、身体拘束についての研修や勉強会を実施して、予防対策について実践していく。	身体拘束を行わない姿勢で日々のケアを提供している。玄関や居室は日中施錠せず、センサーを活用して、利用者が自由に出入りできるように工夫している。また、無断外出時に備えて、近隣住民に協力を働きかけ、外出傾向を察知した際は職員が付き添う等の支援を行っているものの、身体拘束の内容やその弊害について、全職員が十分な理解をするまでには至っていない。	身体拘束については、マニュアル等を活用しながら内部研修を行う等、その重要性について全職員での共通認識の下、拘束のないケアに取り組むことに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止について、勉強会や研修会を通して、防止を心掛ける。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部、外部研修を計画して参加し、制度の理解を深められるような取り組みを行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一つ一つの説明に対して納得していただけるように、丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とのコミュニケーションが図りやすい環境を整え、事業所内に苦情受付窓口や意見投函箱を設置し、家族が意見を出しやすいようにしている。	家族等の面会時には、意見を出しやすいよう、利用者の暮らしぶりや健康状態、受診状況等を報告している他、玄関には意見の投函箱を設置している。また、出された意見や要望を検討し、速やかな対応を行い、今後のホーム運営に反映させるよう努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティングや全体ミーティングを通して意見や提案を求め、より良い環境づくりができるように心掛けている。	月1回のユニット会議の他、隔月で行われる全体ミーティングにより、意見交換が行われ、必要に応じて上層部へ進言する仕組みとなっている。また、職員との個人面談で、より細かな意見や要望を聞く機会も設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体ミーティングを通して意見や提案を求め、より良い環境づくりができるように心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等に全職員がそれぞれ参加できるような体制づくりを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行事参加、見学、研修等を通して意見交換を行い、サービスの質を向上させるように取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何度か事前訪問し、本人の意向を聞き取りしており、安心して暮らせるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問して家族とよく話し合いを行い、情報を提供していただき、家族が一番望んでいることを提示できるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、聞き取りによる適切な状況判断により、必要な支援やサービスが受けられるよう、関係機関との連携を図る。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を人生の先輩、家族の一員として、相互の信頼関係を築けるよう努力し、支援していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし、入居者様の情報提供を通して、意見交換等ができる環境、何でも言い合える関係づくりをしていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の要望を基に、馴染みの人や場所等に足を運んでもらえるよう声掛けし、家族の協力の下で実践していきたい。	入居時のアセスメントや日々の対話で、馴染みの人や場所を把握している。入居後も友人や家族等への電話連絡を取り持つ等、必要に応じて、利用者がこれまで関わってきた人との交流を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりを理解するように努め、その人に合ったコミュニケーションを図り、その人らしい環境、雰囲気づくりを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も電話連絡や相談に対応できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とのコミュニケーションを密にし、思いや希望等の把握ができるように対応している。	利用者の意向等を十分に把握できない場合は、その人がどんな人なのか知ることから始め、思いや意向、希望を把握するように努めている。また、必要に応じて、本人の事を十分に知っている家族や関係者等から情報収集を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や関係機関からの情報を基に、本人と対話しながら確認し、全職員にプライバシー保護の周知徹底を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしい行動を全職員が把握し、心身の状態を観察しながら、変化に応じて適切な支援をしていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人がより良く生活していけるように、コミュニケーションで知り得た小さな情報等を活かして、ケアプランに反映させていく。	全職員の意見や気付きを基に、日頃から職員間で十分に話し合った上でカンファレンスを行い、個別の介護計画を作成している。また、介護計画は利用者の状況変化等により、いつでも見直しができるようになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その人のケアプランや個別内容に合わせて、その人の状態がすぐわかり、家族が見てもすぐわかるような様式になっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制をとり、安心して暮らせるように努める。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や町会と、行事等を通して交流を図り、資源活用を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様や家族が希望する往診や医療機関の受診等ができるようにしている。	入居時のアセスメントにより、これまでの受療状況を把握している。また、利用者や家族が希望する医療機関を受診できるように支援している他、受診結果は利用者や家族等と共有化が図られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックを基に状態観察し、医療機関との連携体制を密にしており、変化があった時には全職員が対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者やその家族、関係者と定期的、また、状態に応じて随時話し合いを行い、早期退院に向けて、関係者との情報交換を密にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様や家族の意向を踏まえた上で、医療機関や家族との連携を図りながら、支援していく体制をとっている。	利用者の重度や終末期の対応について、ホームとしての方針を明確にしておき、隣接する協力病院や利用者のかかりつけ医と連携しながら、利用者や家族の意向を踏まえた上で支援をしていく体制を整えている。また、状況の変化等に応じて、随時話し合いを行い、意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員でミーティング時に各マニュアルを確認し、防災訓練を行いながら、急変時や事故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中だけではなく、夜間帯も想定し、具体的な防災訓練を実施していきたい。	消火器や避難路の確保等の設備点検を定期的に行っている。また、年2回の防災訓練を計画し、防災センターの参加を得て、職員と利用者が一緒になって、避難用の滑り台を利用した訓練を行っているものの、日中だけの避難訓練となっており、災害発生時に備えたホーム独自の物品等も十分とは言えない。	年2回の避難訓練は町会長や地域の方々、運営推進会議のメンバーにも協力を仰ぎ、夜間想定の実施することに期待したい。また、災害時の食料や必要物品等についても検討されることに期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう日々の振り返りを実施し、対応している。	利用者の言動に対して、後回しにしたり、否定や拒否をしないように心掛けている。また、介助時や声掛け時は、利用者の羞恥心に配慮の上で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを聞きながら、発言や意思表示ができる環境づくりを心掛ける。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりがその人らしく自由に過ごせる時間帯等を考慮し、快適な生活が送れるように支援していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員や家族と買い物に出掛けている他、馴染みの美容院に定期的にカットを頼んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人に合わせた献立を作成し、その人にあった食事の提供を行っている他、行事食等も取り入れて、楽しみを持って生活してもらうように努めている。	献立は、季節の旬の食材を使い、利用者の希望や好み、苦手なもの等に配慮している。また、利用者の状況や意思等に応じて、調理の準備や後片付け等を促し、職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給の時間を多く持ち、全職員で把握できるように声掛けを行い、促しできるように心掛ける。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、入床時、毎食後に声掛けや見守りを行い、うがいや歯磨き、口腔ケアを実践している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時での声掛けや誘導等の排泄支援の徹底を行っており、排泄後の清潔保持の支援や確認を行っている。	排泄状況を個々の記録簿に記録しており、個々の排泄パターンを把握し、誘導を行っている。また、失禁時の対応については、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮し、他の利用者には気づかれないよう速やかに行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その人に合ったリハビリ、軽体操の実践をしている他、水分補給の徹底や排泄のリズム確認、排泄を促す適切な支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入居者様一人ひとりに合わせた入浴を提供している。希望があれば、いつでも入浴可能である。	入居時のアセスメントや日々のコミュニケーションで、利用者の入浴習慣や好みを把握できるように努めており、基本的に週2回の入浴日となっている。浴槽は、利用者の安全と安定を重視し、特別仕様で小さめに作られており、移動可能で、利用者の身体状況に合わせて利用できるように配慮されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体力を考慮し、適度な運動後に休息をとるように支援しており、不眠時等には対話や一緒に行動する等して、入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員に服薬の確認と把握をもらいながら、入居者様に提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴や力量を把握し、軽体操、リハビリ、アクティビティーへの参加を促し、それぞれに楽しみを持ってもらうように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩等の日常的な外出の機会を設けている他、ドライブ等を行っている。その日の身体状況に応じて、その日にあった支援をしていく。	行事外出の他、買い物や食料不足等の買い出しへの同行、気晴らしのドライブ、近くの公園への散歩、施設のベランダ一周等、利用者に応じて外出の機会を設けている。また、無理には勧めず、利用者の身体状況に合わせて、移動方法や移動距離に配慮した支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週1回の割合で移動パン屋さんやヤクルト等が訪れた際は、好みのものを購入していただけるように促している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、家族への電話等への対応がすぐにできる環境となっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング等に、季節を感じる手作りの作品を飾り、湿度や温度を確認し、居心地の良い温度調整を心掛ける。	共有スペースであるリビングは、シンプルでソフトな雰囲気が保たれ、利用者は大型テレビを見て楽しんでいる他、季節に合わせた利用者制作の作品も飾られている。また、利用者同士の声や職員の声、テレビの音も騒がしくなく、遮光や湿度、温度も適切に管理されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの中で、一人で過ごせる空間を作ったり、テーブル等の配置換えをして、会話をしやすいように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の馴染みのある家具等を持ち込んでもらい、生活できるように取り組んでいる。	居室には、入居前から愛用していた物や馴染みの物を持ってきてもらうように、家族に積極的に働きかけを行っており、家族の写真や馴染みの椅子、テレビ等を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に大きな居室番号があったり、ドアノブに名札等をつけ、声掛けや見守りを行い、安心して生活できるように心掛けている。		